

令和5年2月9日

令和5年度中央区新年度予算案について(談話)

中央区議会自由民主党議員団幹事長 塚田秀伸

物価高騰対策、新型コロナウイルス感染症への対応、国際競争力・都市力の向上、子育て支援・教育施策の充実、高齢者福祉施策の推進、安全・安心の対策強化、地域コミュニティの活性化、そして20万人都市を見据えたまちづくりの推進など様々な課題が山積する中、令和5年度中央区予算(案)が2月7日に発表されました。

上述のような喫緊の課題に対応するため、中央区行政は本予算案を「新たなステージへ！」と題し、一般会計の歳出総額は過去最大の1,483億9,376万円として提案されたところであります。

我が会派は、日頃区民の皆様からお聞かせ頂く意見・ご要望を基に、昨秋13分野38項目の「重点政策要望」を区長に提出するなど、様々な政策提言を継続してきました。

すなわち、物価高騰対策(経済対策、医療・福祉分野での取組、子育て世代の家計負担軽減)、築地市場跡地の再開発、日本橋川周辺の魅力向上・首都高地下化撤去等、臨海地下鉄新線の早期整備、商業・観光業など区内産業の育成、子育て・教育環境の充実、高齢社会への対応、地域コミュニティの活性化、防災対策の推進、将来を見据えたまちづくりの推進、新型コロナウイルス感染症への対応、受動喫煙対策などの分野であります。

また、子育て・教育環境の充実では、こども家庭庁の創設を踏まえ、国に対して、都心区・中央区の特性を踏まえた子育て支援策の充実について3つの大臣要望を行うなど、政策実現に向けた取組を推進してきました。

給食費・副食費の無償化をはじめ、我が会派の重点政策要望が数多く新規・充実事業として予算案に具体化されているところでありますが、今後開会される第一回中央区議会定例会・予算特別委員会において、これまでの政策提言を踏まえたあらゆる議論を尽くし、令和5年度予算案が区民福祉の向上に資する予算となるよう、全力で臨んでまいります。